

2016年7月8日
環境社会配慮助言委員会委員長 村山 武彦
担当ワーキンググループ主査 石田 健一

インド国シップリサイクルヤード改善事業
(協力準備調査(有償))
スコーピング案に対する助言

助言案検討の経緯

ワーキンググループ会合

- ・日時：2016年6月24日(金) 13:59～17:30
- ・場所：JICA 本部 (2階 210 会議室)
- ・ワーキンググループ委員：石田委員、作本委員、清水谷委員、松本委員
- ・議題：インド国シップリサイクルヤード改善事業準備調査に係るスコーピング案についての助言案作成
- ・配付資料：インド国シップリサイクルヤード改善事業に係るスコーピング案事前配布資料
- ・適用ガイドライン：国際協力機構環境社会配慮ガイドライン(2010年4月)

全体会合(第71回委員会)

- ・日時：2016年7月8日(月) 14:29～16:45
- ・場所：JICA 本部(1階 111・112 連結会議室)

上記の会合にて助言を確定した。

助言

全体事項

1. 汚染物質の除去や健康回復等の施策の必要性を評価し、対策を検討すること。
2. アラン/ソシヤ地区にリサイクルヤードが集中している理由について、社会経済的背景の説明を加え DFR に記述すること。
3. シップリサイクルヤードと廃棄物処理施設間での廃棄物輸送に伴う環境社会影響を評価し、DFR に記述すること。
4. 「条約適合施設に改修」が本事業における実施目的の一つとされているが、改修に関わる施設の具体的な内容及びその必要性を DFR に記述すること。
5. アラン/ソシヤ地区の 167 プロットのうち、事業対象地を 70 プロットに限定する理由を DFR に記述すること。
6. 本事業の実施対象に管理体制支援を含めることとし、施設（ハード）及び運営（ソフト）両面からの改善方法を DFR に記述すること。

代替案の検討

7. 代替案の比較検討項目に「事故」および「作業労働者の健康被害リスク」を加えて、代替案を比較検討し、その過程と結果を DFR に記述すること。
8. インドが 2009 年のいわゆるシップリサイクル条約を批准するために、どのような方式がアラン/ソシヤ地区において適切か、代替案比較を通して、わかり易く DFR に記述すること。

スコーピング・マトリックス

9. 供用中の水質汚染に関するスコーピング・マトリックスの評価理由に「潮間帯での解体による汚染物質の流出リスク」を加え、その対策を検討し、結果を DFR に記述すること。

環境配慮

10. 気候変動によるリスクの検討を行い、必要性に応じて緩和策を策定し、DFR に記述すること。
11. インドの各種環境基準（大気質、騒音、水質、土壌）と国際基準のギャップを踏まえた影響評価を行い、結果を DFR に記述すること。
12. 底質の調査に関連し、重金属やその他の有害物質の汚染程度を調べるために、貝類などの底生生物のサンプリングや検体分析を検討すること。
13. 大気汚染におけるアスベストの飛散の影響に関しては、直接的な大気測定に加え、作業労働者の関連疾病発生状況等の把握に努めること。
14. DFR では、一般廃棄物と有害廃棄物の説明を区別して記述すること。

社会配慮

15. 季節労働を含めた数万人の労働者の健康状況を適切に把握できるような調査・協議方法を検討すること。

ステークホルダー協議・情報公開

16. ステークホルダー協議の開催にあたり、サプライサイクル業に関わる多様な関係者の参加を呼びかけること。

以上